

平成 26 年 1 月

(第 1 回)

京都府教育委員会会議録

1 開 会 平成26年 1 月 16日 午後 2 時 5 分  
閉 会 平成26年 1 月 16日 午後 2 時 29分

2 出席委員

畑 委 員 長 冷 泉 委 員 平 塚 委 員  
上 原 委 員 安 藤 委 員 小 田 垣 教 育 長

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

橋 本	教育次長	小 橋	管理部長
永 野	指導部長	丸 川	教育企画監
太 田	管理部理事	岩 城	管理課長
沖 田	学校教育課長	名 和	管理課担当課長
片 山	総務企画課副課長	平 野	管理課副課長
岡 田	総務企画課副主査	瀬 津	総務企画課主事

## 5 議事の概要

### (1) 開会

委員長が開会を宣告

### (2) 前会議録の承認

ア 12月分1回の会議録について、全出席委員異議なく、これを承認した。

### (3) 報告事項

ア 府立鴨沂高等学校校舎等改築工事基本・実施設計業務の進捗状況について

#### 【岩城管理課長の報告】

- 鴨沂高校の校舎整備に当たり、平成25年12月25日に「鴨沂高校未来づくりワークショップ」を開催した。ワークショップとは「共同作業」という意味で、施設利用者が主体的に設計作業に参加することにより、より使いやすく親しみのある施設にしていこうとする試みであり、建築やまちづくりの分野で、近年多く取り入れられている手法である。
- 府立学校では、舞鶴こども療育センターと併設の舞鶴支援学校の分校に次いで2例目であり、各学年の生徒代表23名、教職員7名、PTA役員1名の合計31名が参加したが、生徒が参加するワークショップとしては、府立学校では初となる。
- 設計事務所から提案書について説明した後、4つのテーブルに分かれた生徒たちが自己紹介を行ってからワークショップが始まった。それぞれのテーブルには、教職員やPTA役員の各2名が補助役として加わるとともに、現状の建物の写真と他の高校の写真等を数枚置き、中央には1/300の現校舎模型を置いて、グループワークを進めた。
- ワークショップのテーマは、①既存校舎の写真を見ながら鴨沂高校の良かったところを考えてみよう、②事例写真をもとに新校舎での生活を思い浮かべ、「こんな場所でこんなことができたらいいな」を考えてみよう、③写真や模型を見ながら新校舎に残していきたいことを考えてみよう、の3点である。
- 最初は、初めてしゃべる相手に、緊張してなかなか意見が出にくい班もあったが、30分近く経過したあたりから、自由闊達に多種多様なアイデアが出てくるようになった。生徒たちは、模造紙に校舎の各パーツの写真を貼り付けながら、付箋紙に自分の思いやアイデアを書き込んで貼り付けていた。
- 2時間経過した後、班ごとに発表、意見交換、まとめを行った。主な意見としては、「昔ながらの正門・建物や中庭の雰囲気が良い。」、「地下を利用して駐輪場やクラブボックスに活用して欲しい。」、「テラスを作って欲しい。」、「図書館をもっと広くして自習できるスペースを作って欲しい。」、「校内にテニスコートを作って欲しい。」等々であった。
- 終了後には、集計数25件であるがアンケート調査も行った。ワークショップの内容については、「とても良かった」24%、「良かった」68%、「まあまあ」8%、「良くなかった」0%であった。「ワークショップで自分の意見は言え

ましたか」との問いでは、「言えた」36%、「ほぼ言えた」60%であった。「あまり言えなかった」が1名(4%)いたが、言いにくい雰囲気であったのではなく、頭の中で整理できなかつたというのがその理由であった。アンケート結果は、概ねワークショップへの好意的な印象であった。

- 1月22日に次回ワークショップを予定しているが、今回の生徒の意見も可能な限り反映させた基本プラン(建物配置計画・動線計画・部屋の配置計画等)を示した上で、グループワークを実施する。
- 2月中旬には第3回のワークショップを開催して、基本設計を固めたいと考えている。また、4月以降は詳細設計(実施設計)を開始するとともに、北敷地を先行させる形で解体工事にも着手したいと考えている。南敷地での解体に当たっては、正面棟の部分補強工事をあわせて実施する。また、新築工事は12月以降に着手するが、開始時期等については当初の予定どおりであり、新校舎への移転は28年2学期の予定である。

#### 【質疑応答】

##### ○上原委員

ワークショップに参加した生徒は23名ということだが、どの学年が参加したのか。

##### ○岩城管理課長

それぞれのグループに各学年の生徒が参加している。初めて顔を合わせたこともあり、始めは緊張していたが、慣れてくると様々な意見が出るようになった。生徒会の役員などを中心に学年の偏りが無いよう、学校にお願いしたものである。

##### ○名和担当課長

生徒会役員やクラブ活動の中心生徒に声かけを行い、参加してもらった。また、ワークショップ本番をいきなり行くと、生徒がワークショップを受け止めにくいことから、事前に「ワークショップとはどのようなものか」や、「プロポーザルの内容」についても説明を行って、本番に臨んだ。

##### ○上原委員

高校生が自分の家を建てることもない。事前に説明しておかなければ、なかなかイメージができない。

##### ○岩城管理課長

事前説明をしたことで、想像した以上に活発な議論となったと感じる。

##### ○上原委員

2回目、3回目での議論にも期待したい。

##### ○安藤委員

回数を重ねる毎に生徒は替わるのか。

##### ○岩城管理課長

生徒からは、「グループを固定して欲しい」との意見はある。その他にも意見があり、学校と調整したい。校舎の基本設計に関して生徒を中心としたワークショップを計3回予定しているが、具体的な部屋の仕様など基本設計以外の部分についても、ワークショップという形ではないが、直接的・間接的に利用者の意見を聞きたい。

##### ○上原委員

参加する生徒は23人という限られた人数であるが、生徒がその議論を持ち帰り、他の生徒の意見を吸い上げ、代弁するような仕組みがあれば、全体に広がりが出て良い。

○岩城管理課長

学校ではアンケート調査も実施している。全員が参加することは困難だが、他の生徒の意見を吸収するような工夫ができればと考える。

○平塚委員

選抜された23人を固定するのであれば、第1回ワークショップの報告を学校に持ち帰り、他の生徒の様々な意見を吸い上げて、第2回ワークショップで議論するなど、丁寧に進めた方が良いと感じる。

○名和担当課長

ニュースレターを全校生徒に配布するとともに、ワークショップでの成果物も校内に掲示して、生徒に見てもらえるようにしている。

○畑委員長

そもそも、ワークショップの主催者はどこになるのか。

○岩城管理課長

基本的には設計事務所の主催であるが、当然、教育委員会とも意見を調整しながら進めている。

○畑委員長

ハード面の細かいところは最終的にはプロである業者が決定していくべきものだが、できた学校をどう使っていくのかを3年かけて醸成していただきたい。私は、学生時代に学校の弁論大会で2等になったことがコンプレックスとなっているが、ある意味では糧にもなっている。設計業者の視点からワークショップを行うことも大切だが、新しい学校施設を生徒が、「こんなことができる、したい」と話し合うことも大切である。単に設計業者に任せて、大人の作ったニュースレターを発行し、報告書をまとめただけでは面白くない。私たちの本当にすべきことは違うと思う。今後、「何故この23人なのか」や「誰が何を言ったのか」と言われることの無いよう、出来ないことは出来ない、納得してもらおう努力も必要である。

○上原委員

学校の中で、生徒みんなで作り上げていくという雰囲気大切である。誰かが勝手に設計して出来上がったのではなく、「この部分は私たちが提案した部分」など、みんなで関わったと実感できることが必要である。

○畑委員長

ポジティブな楽しみが重要である。ワークショップは、谷口前教育委員に参加してもらえば、すごく盛り上がるのではないかと。また、ワークショップに関しては、設計業者が図面を作成する上で情報収集するもので、これはこれで結構だが、教育委員会の場では、ワークショップをやりませただけで終わらないようにしてほしい。

○冷泉委員

施設については、お金や様々な制約から「出来ること」と「出来ないこと」があるだろうし、高校生としてそういった部分を理解させることも大切である。状況をきっちり把握した上で、皆で新しい学校に向かって進めるよう、お願いしたい。

○畑委員長

京都迎賓館建設の時には、ゲートボール場を京都御苑のテニスコート横に移設した事例がある。最終的には、大きな視野で見ているものを皆で実現することで新しい可能性が開くこともたくさんある。このことだけで、ああでもないと言うのではなく、過去の事例に学びながら、将来こうしようというスタンスで校長と職員が共有して進めていただければよいお願いしたい。

(4) 閉会

委員長が閉会を宣告

署 名

畑 委員長

冷 泉 委 員

平 塚 委 員

上 原 委 員

安 藤 委 員

小田垣 教育長

事務局職員